

3 出土した遺物

遺物は、鎌倉～室町時代（13～15世紀）のものが出土しています。集落遺跡ですが、出土量はそれほど多くありません。これは器として破損しない限り使用していたことで、廃棄されることが少なかったためです。そして木製食器の割合が多いためです。

土器は、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土師器や、「珠洲焼」と呼ばれる陶器が主に出土しています。木製品は、曲物や棒状のものが井戸などから出土しています。石器は、磨石や砥石が出土しています。

その他、中～近世の陶磁器や、わずかに金属製品、獣骨が出土しています。



かわらけ：13～15世紀

口クロで成形されたものや、手づくねのものがあります。大小様々なものがあり、皿や椀が主です。多くが日常雑器と考えられます。

4まとめ

今回の調査区では、鎌倉～室町時代の遺構・遺物が見つかりました。遺構は、掘立柱建物・井戸・溝など集落を構成するものが中心です。遺物は、13～15世紀（鎌倉～室町時代）のものが認められることから、集落が断続的に存続したものと考えられます。

周辺の集落跡の丘江遺跡や、水田跡の宝田遺跡と共に存する時期もあると考えられ、いずれも柏崎地域の中世（鎌倉～室町時代）を考える上で重要な調査例と言えます。また、柏崎バイパス事業の調査は今後も継続的に行われることから、さらなる成果が期待できます。



珠洲焼：13～15世紀

現在の石川県珠洲市の窯で焼かれた陶器で、壺・壺・楕円鉢が基本のセットです。



木製品（曲物）

木製の器です。左は井戸から出土しており、底に設置したものと考えられます。右は柄を付けて构のように使用したものと推定されます。



青磁（左上）：13～15世紀
肥前系陶器（右上）：16～18世紀
肥前系磁器（下）：18世紀以降

やまざき 柏崎市山崎遺跡現地説明会資料

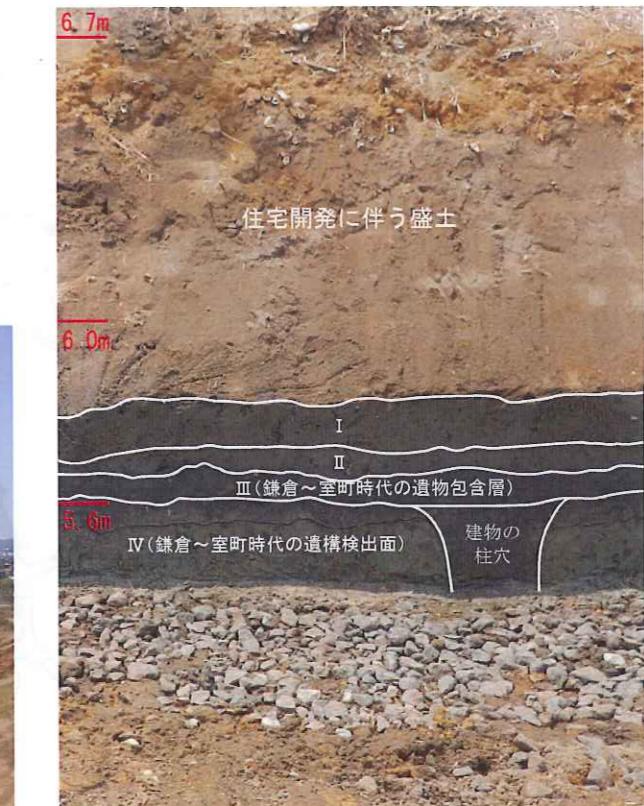
平成26年9月20日（土）

国土交通省 北陸地方整備局岡国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

藤村ヒューム管株式会社



山崎遺跡の位置と周辺の主な遺跡



1はじめに

山崎遺跡は、柏崎平野北東部の鶴石川左岸に広がる水田地帯の南端、標高約5.5mの扇状地先端に位置します。北側の水田域との比高は約1mあり、やや小高くなります。平安～室町時代にかけての集落が営まれていた遺跡です。

発掘調査は、国道8号柏崎バイパス事業に伴い実施しています。遺跡全体の調査対象面積は約20,000m²です。平成23年度に続き、平成26年度は4月から11月までの期間で、鎌倉～室町時代の集落跡9,200m²を発掘調査する予定です。

遺跡は現地表面から約1m下で見つかります。鎌倉～室町時代の集落が埋没した後、水田となりました。昭和初期頃からの住宅開発により遺跡が盛土で覆われたことで、比較的良好な状態で残されていました。そのため非常に多くの遺構を検出できます。



遺跡の遠景（北から：荒浜砂丘上から）

2 検出した遺構

調査区は南北 250m と長いですが、**鎌倉～室町時代**の遺構が分布します。特に1区南側から、2区にかけて多く認められることから、集落の中心であつたことが考えられます。

1区では廂の付く大きな掘立柱建物（約 10×7m）を中心に、非常に多くの建物が分布しているようです。さらに幅約2mの大形の溝が規則的に配置されています。これらは建物群を区画するとともに、居住環境の改善を目的として、排水施設を兼ねていたと考えられます。



柱穴の土層断面

柱穴は、まず一定の高さに掘り下げて、柱の中心を割るように断面を記録します。柱の跡は写真のように黒い土が残ります。



柱根の出土状況

柱穴の中には、柱が腐らずに残っているものがあります。



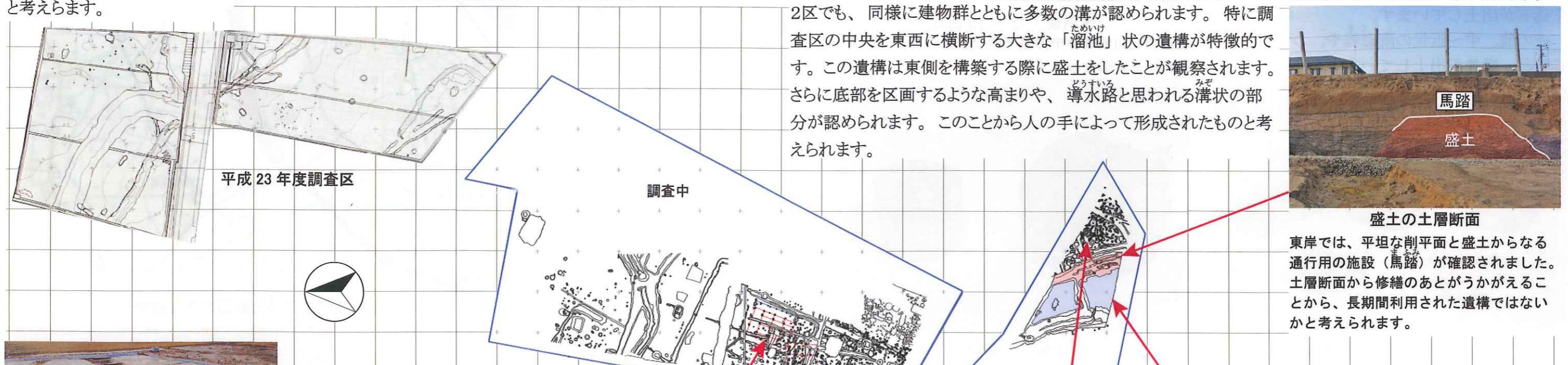
井戸 完掘

井戸の深さは、浅いものが 70cm、深いものが 150cm くらいあります。現状で遺跡全体に 60 基以上見つかっています。



土坑の断面

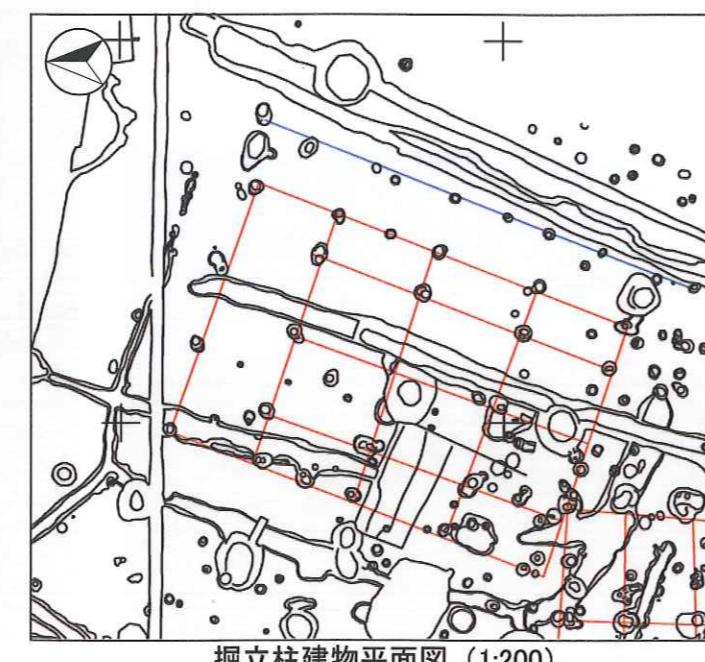
土坑の埋土では、人頭大の土の塊が入り込んでいるものがあります。これは人為的に埋め戻した可能性が考えられます。



平成 23 年度調査区 完掘



平成 23 年度調査 出土遺物



掘立柱建物平面図 (1:200)



掘立柱建物 完掘 (北東から)



掘立柱建物 完掘 (南から)



「溜池」状遺構 完掘 (南東から)